

ひとみ

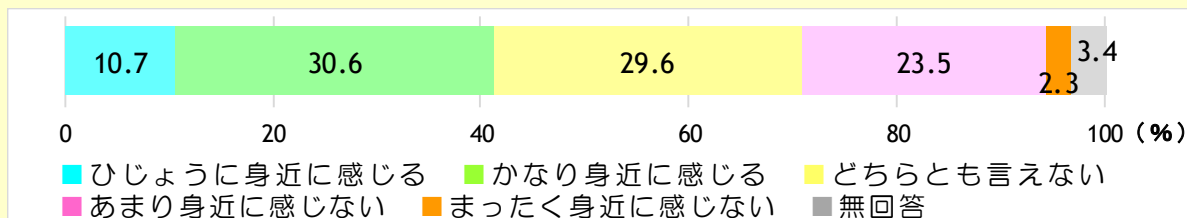
発行
相生市教育委員会
(人権教育推進室)
電話 23-7145
令和元年8月号
(第42号)

8月は「人権文化をすすめる 県民運動」推進強調月間です！！

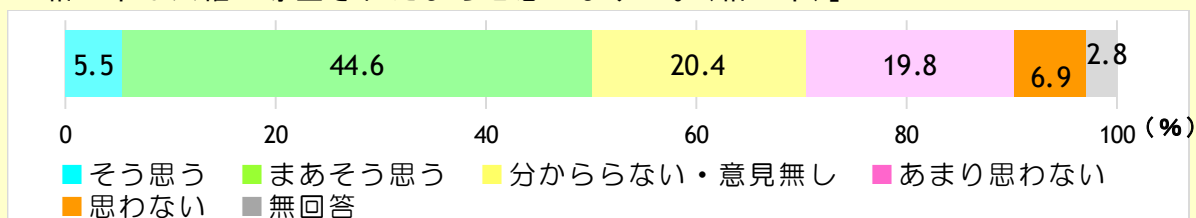
人権が尊重されたまちづくりについて

以下は、平成30年度に兵庫県が実施した県民の人権意識調査の結果と、平成29年度に相生市が実施した第五次相生市総合計画進捗把握アンケートの結果をグラフにしたものです。ご覧になっていかが感じられたでしょうか。

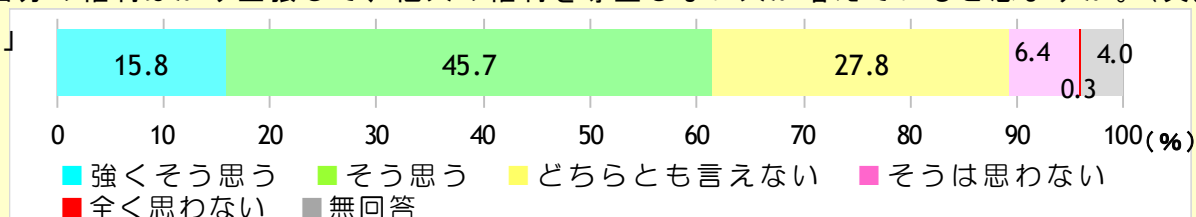
「あなたは、人権をどのくらい身近な問題として感じていますか。(兵庫県)」



「相生市は人権が尊重されたまちと思いますか。(相生市)」



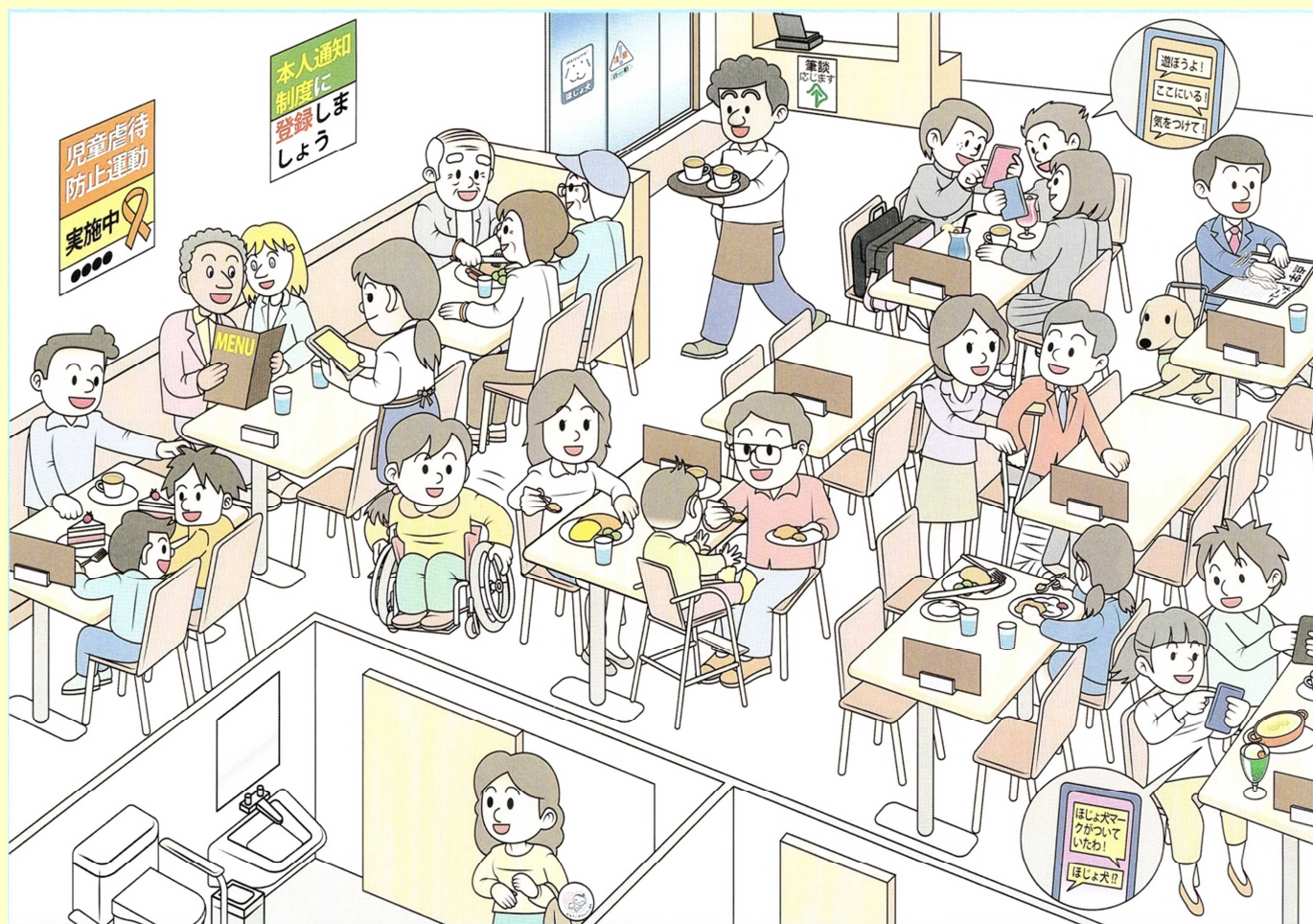
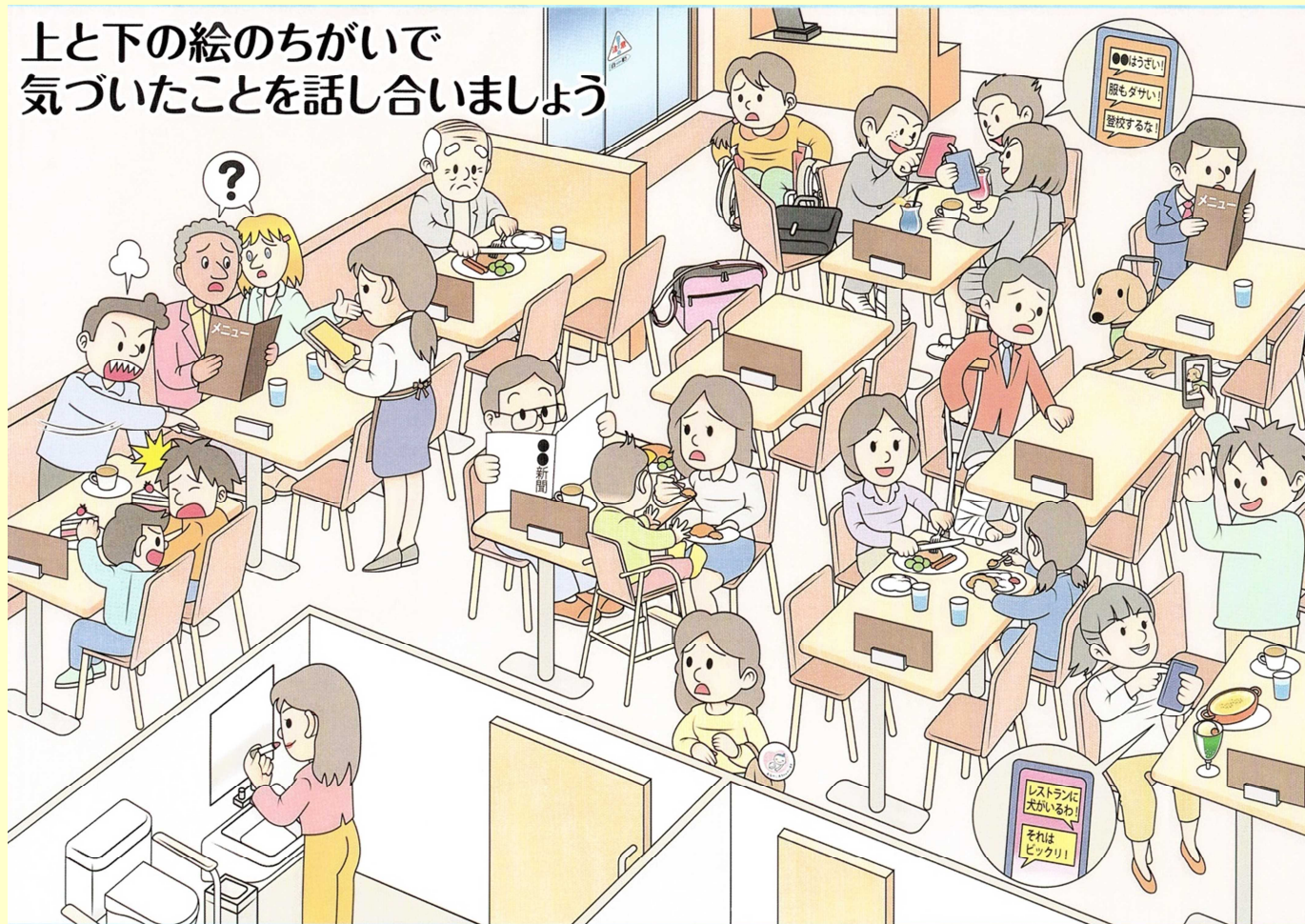
「自分の権利ばかり主張して、他人の権利を尊重しない人が増えていると思いますか。(兵庫県)」



人権について考える際、人権を空気に例えられることがあります。普段は当たり前のようにあるので大切さに気づきにくいのですが、人権が侵害されそうになってその大切さを感じると言われます。私たちの周りには、意識する、しないに関わらず、さまざまな権利が存在します。そして少し意識することで見えてくるものもあります。共生の社会の実現に向け、安心・安全に暮らせる社会の実現に向け、人権について考えませんか。



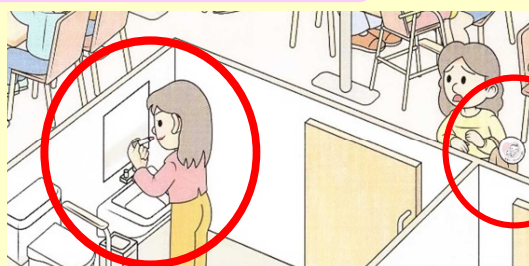
上と下の絵のちがいで 気づいたことを話し合いましょう



左の絵の上と下を比べられて、どんな違いに気づかれたでしょうか。私たちの身近な社会を人権の視点で見ることで、おかしいと感じたり、ほほえましく感じたりする場面が見えてきます。以下は、さまざまな視点で気づきにつながるポイントを紹介しています。



イラストの中の「人権」につながる場面 「女性の人」



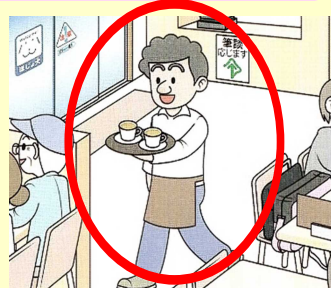
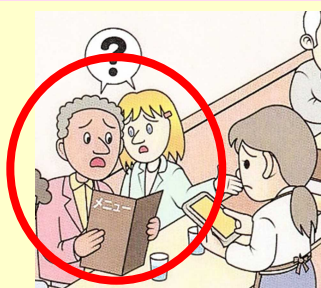
気づきのポイント

- 子育ては、女性だけがするものでしょうか。
- 多目的トイレは使い方に応じた利用が望ましいですね。
※女性の人権で紹介していますが、高齢者、障害のある方、配慮の必要な方など利用を望まれる全ての方を対象に考えなければならない問題です。
- 妊娠初期は外見での判断が難しいですね。

男女がお互いを尊重しつつ責任を分かち合い、その個性や能力を十分に発揮できる社会の実現が求められています。また、DVやハラスメントの防止は、周囲の人の協力が大切です。



イラストの中の「人権」につながる場面 「外国人の人」



気づきのポイント

- そのメニューは誰もが読めるのでしょうか。
- 国籍に関係なく誰もが社会参加できることが大切です。



国際化の進展の中、日本で生活される外国人の方は増加傾向にあります。言語、宗教、生活文化、習慣等の違いによりトラブルになることもあります。また、ヘイトスピーチも問題となっています。多様性を受け入れた「多文化共生社会」づくりが大切です。

イラストの中の「人権」につながる場面 「子どもの人権」



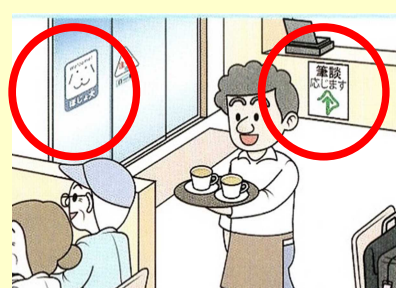
気づきのポイント

- 子どもへのしつけとして、暴力を振るっていいのでしょうか。
- いじめは、直接的な言動だけではないですね。
- 子どもは、社会全体で見守っていききたいですね。



子どもも大人と同様に基本的な人権を保障されています。しかし、いじめや虐待などの問題は後を絶ちません。大人以上に人権を侵害されやすい子どもは、社会全体で守られなければならない存在です。

イラストの中の「人権」につながる場面 「障害のある方の人権」



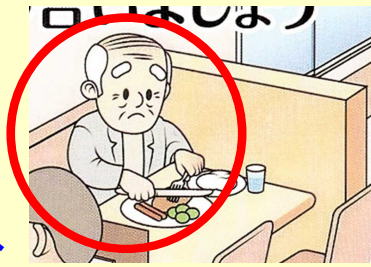
気づきのポイント

- 誰もが利用しやすい環境と配慮が大切です。
- 点字メニューがあれば、視覚障害のある方が自分でメニューを選ぶことができますね。
- 障害について正しい知識と相手に寄りそった行動が大切です。
- 障害のある方や配慮が必要な方に関するマークの意味を確認しておきたいですね。

障害のある方が自立し社会参加できるようになるために、ハード面での整備がなされても、その機能が阻害されていることがあり、「心のバリアフリー」が望まれています。それが、誰もが安心して暮らせる「ユニバーサル社会」につながります。



イラストの中の「人権」につながる場面 「高齢者の人



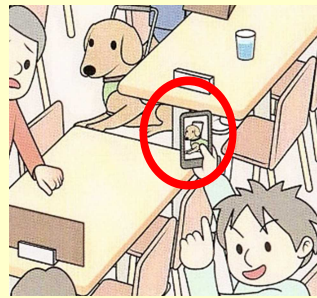
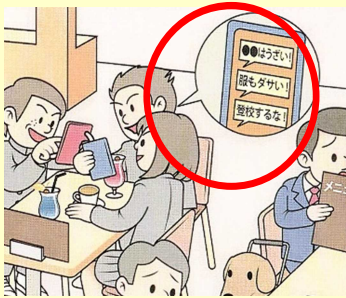
気づきのポイント

- 周囲から孤立した高齢の方はいませんか。
- オレンジリング(認知症サポーター)の周知と協力が広がるといいですね。

今後高齢化は、ますます進む傾向と言われています。虐待や悪徳商法の被害が続いています。高齢者の尊厳が守られ、豊かな経験や知識が十分に尊重される社会づくりが大切です。



イラストの中の「人権」につながる場面 「インターネットによる人権問



気づきのポイント

- インターネットによる相手を傷つける書き込みが増加しています。
- 興味本位の画像や動画によって、誰かが傷つくことがあります。



インターネット上では、自分が知らないうちに加害者や被害者になる危険性があります。安全・安心に利用する方法を理解し、自分も相手も大切にしたい使い方をすることが大切です。

イラストの中の「人権」につながる場面 「同和問



気づきのポイント

- 本人通知制度について知っていますか。

身元調査や結婚差別などの問題のほか、インターネット上で、同和地区出身者を傷つける表現や、同和地区の所在を示す書き込みが行われるなどの問題もみられます。



※ 「本人通知制度」とは、事前に登録をされた方の戸籍謄本等を代理人や第三者が取得した際にそのことを登録者に通知をする制度です。

少子高齢化、情報化、国際化の進展、人々の価値観や生き方の多様化などにより、さまざまな背景や事情をもたれた方が社会の中でともに暮らしています。まずは、そのことを意識することが気づきにつながります。

また、2ページの下段のイラストのように、日常生活の中で人権を尊重することを意識せずとも自然に態度や行動に表れるような社会を「人権文化が尊重されたまち」としてめざしています。

一人一人の権利が守られ、誰もがいきいきと暮らせるまちづくりに向け、私たち全員で取り組んでいきたいですね。



まちの人権トピックス

令和元年度「相生市善意の集い」
受賞者と作品

「しあわせの連鎖」(最優秀賞)

双葉中学校 2年 矢倉 圭恭

毎日、ぼくは7時40分に家を出て学校に向かう。気分の良い日は、足どりが軽い。テストの日は足どりが重い。小学校の時から8年間、毎日歩いて通っている道だ。

僕の家は、山の一番上にあって、行きはとても楽だけど帰りはとてもしんどい。重い教科書の入ったカバンを背負って、補助力バンを手に持った長い坂道は地獄のようだ。小学生の頃、友だちと遊ぶ約束をした日は少しでも早く遊びに行きたいから死にそうなくらい一気に坂道をかけあがっていた。そんな坂道は中学生になった今では、体力がついたおかげで苦にならなくなった。

その日もいつもの時間に家を出て坂道を下り、いつも通る散髪屋さんの所まで来た時、忘れ物をしたことに気づいた。大急ぎで来た道をUターンして猛ダッシュで坂道の下まで戻ってきた。坂道の下で大きく深呼吸をして一気にかけ上がり家まで戻った。急いで忘れ物をカバンに入れ、来た道を一気にかけ下りると、僕の前につえをついたおばあちゃんがゴミ袋を道において立っているのが見えた。急いでいたので、そのまま横を通り抜けた。「下り坂だからきっと楽だよ。」と僕は思った。後ろから

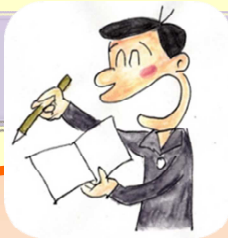
「いってらっしゃい。」という声が聞こえたので5、6歩ぐらい走った所で振り返ってみると、さっきの所から全く動いていなかった。僕は、急いでかけ下りた坂道をUターンしておばあちゃんの所へ行った。そして、ゴミ袋を持って、おばあちゃんに、「これ、あのゴミステーションに捨てといたらええなあ。」と、おばあちゃんの返事も聞かずに走っていき、僕のカバンよりだいぶ軽いゴミを捨て、猛ダッシュで学校に向かった。

帰り道、坂道を歩きながら今朝の出来事を思い出した。「いつもの時間に家を出るから今まであのおばあちゃんに会わなかったのか。あんなに軽いゴミを捨てに行くことって、そんなに大変なことなのかな。年をとったら坂道を下ることが難しいのかな。」家に帰ると、朝に会ったおばあちゃんが、隣に住んでいる僕のおばあちゃんに、朝にゴミ捨てをしてもらって「ありがとう」と言っというてと、頼まれたことを教えてくれた。

僕らには簡単なことでも、お年寄りや手足の不自由な人にとっては時間がかかったり、大変だったりすると思った。あの時は、お礼を言ってほしいからゴミを捨てたんじゃない。とっさに「おばあちゃんは捨てに行きたくても早くいけないから休んでいた。」そう思えたから行動に移せたのだ。僕ら若者が、困っている人やお年寄りに自然に手を差しのべられたら、みんなが幸せに生きられる社会になると思う。そして、きっと自分にも幸せが返ってくると思います。その証拠に僕は、「ありがとう」という言葉を聞いて、とても幸せな気持ちになった。



学 校 名	学 年	氏 名	作 品 名
最優秀賞			
那波小学校	5 年	今井 尊	笑顔あふれる町に
双葉中学校	3 年	矢倉 圭恭	しあわせの連鎖
優秀賞			
相生小学校	4 年	小南 比登美	近くのみんな
若狭野小学校	6 年	森岡 駿太朗	おばあちゃんと畑仕事
那波中学校	2 年	有政 和奏	言葉の在り方
矢野川中学校	3 年	岡野 菜乃花	地域連携プレー



「まちかどじんけん特派員」からのお願い

「笑顔の力、ありがとうの力」

ゴールデンウィークに家族で外出しました。渋滞は覚悟していましたが、案の定渋滞になり、しばらく動かなくなりました。やっと動き出し、ホッとしていた時、対向車線の車が右折のウィンカーを出し、向かい側のコンビニに入ろうとしていました。それまでの渋滞でみんな先を急いでいたのかは分かりませんが、誰も停まって車を入れようとしていませんでした。私はどうしようかと思いましたが、もしかしたら急いでいるかと思って停止しました。そして、



相手の車が私の車の前を横切ってコンビニの駐車場に入ろうとした時、車の助手席に座っていた男の子が窓を開け、笑顔で「ありがとう。」と言ってくれました。私にすれば、ただ道を譲っただけでしたが、男の子の笑顔のおかげで、私も私の家族もその後の運転が心なしか楽しくなったように感じました。

市内在住 40代男性より

「のじぎく文芸賞」作品募集中

～あなたの思いを作品に書いてみませんか～

募集部門／詩、随想(手記・作文を含む)、小説、創作童話

応募条件／兵庫県内に在住、在勤、在学の方

応募作品／インターネット上を含む未発表・未投稿の自作作品に限ります。

※作品は、審査委員会で審査・選考されます。

詳細については兵庫県人権啓発協会HPをご覧ください。

応募方法／郵送に限ります。9月9日(月)締め切り

(当日消印有効)

〒650-0003 神戸市中央区山本通 4-22-15

県立のじぎく会館内(公財)兵庫県人権啓発協会「のじぎく文芸賞」係

☎078-242-5355



のじぎく文芸賞の題材

- 人の優しさや思いやり、支え合うことのすばらしさが描かれているもの
- 一人ひとりを大切に、心豊かな社会づくりの姿勢が描かれているもの
- 生命や人権の尊さ、大切さが描かれているもの
- 人権課題の解決に向けて、明るい展望をもって描かれているもの